外来種に追いやられる カキツバタ

地域で守る

本来茂林寺沼に自生している「カキツバタ」は、外来種の影響で生育環境を奪われてしまっています。特に、人の手で持ち込まれてしまった「キショウブ」「ルイジアナアヤメ」などのアヤメの仲間は、繁殖力の強さから生態系を乱し、湿原内に黄色や薄紅色が目立つようになってきてしまいました。



侵食する外来種キショウブ

館林市では、カキツバタを守るため、地下茎で広がるキショウブなどを根から抜き取る除去作業を行っています。



地域の方との外来種の除去作業

日本遺産「里沼」構成文化財

茂林寺沼及び低地湿原

館林里沼

館林里沼
公式 WEB サイト
(https://sato-numa.jp/)

館林市教育委員会



種から育てられたカキツバタ

カキツバタで「真っ青だった」湿原の再生にむけて

新緑の季節に青い花の「カキツバタ」が咲き誇る風景は、貴重な動植物の多い茂林寺沼湿原の中でも特に印象深いものとして地域の方々の記憶に残っています。

しかし近年、湿原の乾燥化や外来種の流入によって、その数は減ってきています。

育て、増やしていく

館林市では、平成24年度より地元有志と協働して湿原で採れたカキツバタの種を育てる「里親事業」を始め、カキツバタの保護保全に努めています。

ほかにも、湿原の再生にむけて地域の方々とさまざまな活動を行っています。



カキツバタの移植作業

外来種のこと ≫